



四ツ黒権現社。瀧姫と3人の侍女の塚がこの地にあり、安永年間(1772~1780)新田開墾時、四ヶ所の塚の遺骸を一ヶ所に合葬し、四ツ黒権現社を創設して鎮守社とした。



松前町浜の女性の戦前まで見られた行商姿は瀧姫をまねた松前ならではの風俗であった。小字四ツ黒の地名はこの四ツの塚に由来する。



東古泉素鷲神社。寛喜4年(1232)国司河野通尚が性専寺(金蓮寺)に來訪していた明海禪師に命じて、玉生八幡大神社の祭神である三女神の分靈を安置して弁天社(市杵島姫命を祀る)と号したのが始まり。



その後、慶長3年(1598)疫病が流行したので、玉生八幡大神社の神主が時の領主加藤嘉明に請って熊野三社宮を勧請し弁天社内に祇園社を奉斎し、流行病をしずめる守護神として尊崇した。



更に、正徳6年(1716)に、弁天社と祇園社を合祀して淵の神社と改称し、さらに明治3年(1870)素鷲神社と改称し現在に至っている。

お参りすると足の病気が治癒するという
東古泉庚申堂(辰之助信仰)

東古泉の四ツ黒権現社と素鷲神社



秋祭り獅子舞競演 (平成19年10月15日 東吉良「あかり」)